



別府市の社会福祉法人「太陽の家」に完成した新資料館「太陽ミュージアム」が7月4日、オープンします。

① 太陽ミュージアム開設の目的は何ですか？

「学ぶ」「体験」「感動」をコンセプトに、太陽の家の創設者で「保護より機会を」の理念を提唱した故・中村裕博士の業績を伝え、障害者の仕事やスポーツへの理解を深めてもらうことが目的。

②何が展示されていますか？

太陽の家やパラリンピックの歴史、中村博士の業績、福祉車両、障害のある人のために工夫した生活や職場の道具・用具などが展示されている。

③どんな体験ができますか？

車いす体験や、車いすレーサー・バスケットボール用車いすの試乗などができる。

④見出し「〇〇社会広める拠点に」。〇〇に入る漢字を考えてください。

共生

共生社会広める拠点に



7月4日にオープン控える太陽ミュージアム。29日、別府市内電の太陽の家。撮影・江藤成吾



2000年に開設した歴史資料館の老朽化に伴い、東京五輪パラリンピックに合わせて太陽の家の本館前に新築した。鉄骨平屋（約千平方尺）。多くの県産材を使い、広い窓から採光、太陽の光が降り注ぐ様子をモチーフとした。展示室や研修室、屋外は



①車いすなどの障がい者スポーツの体験コーナー②治具や自助具の体験もできる



別府市内電の社会福祉法人「太陽の家」（山下達夫理事長）に完成した新資料館「太陽ミュージアム」が7月4日、オープンする。コンセプトは「学ぶ」「体験」「感動」。太陽の家の創設者で「保護より機会を」の理念を提唱した故・中村裕博士の業績を伝え、障害者の仕事やスポーツへの理解を深めてもらう。29日、報道関係者向けの内覧会があった。

車いす体験ゾーンなどを整備。共生社会に向けた情報発信を続け、交流拠点を自指す。展示室入り口には、障害者ら約400人が作った竹のアートクラフト「ミンナノアイヨウ」を設置した。太陽の家やパラリンピックの歴史、中村博士の業績などを資料やパネルで紹介。坂道や段差、砂利道など街中を再現したコースでの車いす体験や、車いすレ

サーやバスケットボール用車いすの試乗などができる。福祉車両、障害のある人のために工夫した生活や職場の道具・用具を展示。共同出資会社の紹介コーナー、アート作品やオリジナル商品を販売するショップもある。資料館は3月末の開館を予定していたが新型コロナウイルスの影響でオープンが遅れた。来月3日にオープン

「太陽の家」新資料館 4日オープン

（和田礼子）
 プリンクセルメモリーを開く。総事業費は県や市の助成金、個人・企業の寄付を含め約3億2600万円。山下理事長は「障害があることは特別ではない。資料館を通じて共生社会を広げていきたい」と話している。